

定員に達し、申込みを締め切りました。

応用生態工学会札幌セミナー 2018

「気候変動と人口減少にいかに対応するか ～グリーンインフラ～」

平成 30 年
11/13 (火)
13:30 ~ 17:45
かでの 2.7

参加無料

主 催：応用生態工学会札幌
共 催：国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所、
一般財団法人北海道河川財団
協 力：国土交通省北海道開発局、北海道

昨今の気候変動に伴う超過洪水や将来の人口減少をふまえた地域社会の形成が課題となっています。

本セミナーでは、グリーンインフラや Eco-DRR (生態系を活用した防災・減災) という新しい概念にもとづいた地域社会の形成、川づくりや制度整備等について、島谷氏と瀧氏からご講演いただきます。そして、これからの北海道の川と地域のあり方について考えます。

日 時：平成 30 年 11 月 13 日 (火) 13:30 ~ 17:45 (開場 13:10)

場 所：道民活動センター かでの 2.7 大会議室 (4 階) (札幌市中央区南 2 条西 7 丁目)

参加費：無 料 (定員 150 名 / お申込みは裏面参照)

< 内容 >

定員に達し、申込みを締め切りました。

進 行 根岸 淳二郎 (北海道大学地球環境科学研究院 准教授)

講 演 13:30 ~ 16:00 (休憩 15 分)

「挨拶・主旨説明 気候変動と人口減少にいかに対応するか ~グリーンインフラ~」

中村 太士 (北海道大学農学研究院 教授) …45 分

「九州北部豪雨の災害復旧とグリーンインフラ ~“いい川”の形成」

島谷 幸宏 (九州大学工学研究院環境社会部門 教授) …45 分

「Eco-DRR の社会実装に向けた挑戦 ~滋賀県の減災型治水システム」

瀧 健太郎 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 准教授) …45 分

パネルディスカッション 16:00 ~ 17:40

『平成 28 年水害をふまえ、我々は、気候変動と人口減少にどう対応するか。~これからの北海道の川づくりについて~』

平成 28 年 8 月の洪水から 2 年が経ち、災害の現場では、復旧工事が進められています。災害復旧の現状や課題、今後の河川管理の方針や計画について北海道開発局と北海道から紹介いただきます。

そして、気候変動 (超過洪水) や人口減少をふまえた川づくりを進めていくにはどうしたら良いのか……。

治水の計画や技術、河川環境の保全と整備、合意形成などさまざまな課題について意見交換を行います。

コーディネーター **中村太士** パネリスト **島谷幸宏、瀧健太郎**

岡部 博一 (国土交通省北海道開発局 河川計画課河川調整推進官) …話題提供

米谷 功 (北海道建設部土木局河川砂防課主幹) …話題提供

閉会挨拶 17:40 **平井 康幸** (寒地土木研究所 寒地水圏研究グループグループ長)

閉 会 17:45 (予定)

※懇親会：18 時 30 分から 2 時間 / 会費 4,000 円 / 会場 旅館 中村屋 (中央区北 3 条西 7 丁目 / 会場より徒歩 1 分)

お問い合わせ・応用生態工学会札幌 (担当：福家) sapporo.nakamuraken@gmail.com

このセミナーは、一般社団法人建設コンサルタント協会の継続教育 (CPD) 制度のプログラムとして認定されています。また、(独) 環境再生保全機構「平成 31 年度環境研究総合推進費 4-1805 グリーンインフラと既存インフラの相補的役割ー防災・環境・社会経済面からの評価」(代表：中村太士) の一環として開催しています。

応用生態工学会札幌セミナー 2018

「気候変動と人口減少にいかに対応するか ～グリーンインフラ～」

＜講演者プロフィール＞

「挨拶・主旨説明 気候変動と人口減少にいかに対応するか ～グリーンインフラ～」

中村 太士（北海道大学農学研究院 教授／応用生態工学会 理事）

愛知県名古屋出身。1958年生まれ。中学時代から北海道に憧れ、北大に入学。ヒグマ研究会の友達らの影響や、札幌農学校のクラーク先生の言葉“Be Ambitious”に惹かれ、工学部志望から農学部林学科に変更。1990年から92年までアメリカのオレゴン州立大学で生態系管理学を学ぶ。森林と川のつながりなど、生態系間の相互作用を土地利用も含めて流域の視点から研究している。学会及び社会的活動も幅広く、森林学、応用生態工学など応用分野のみならず、地形学、生態学といった基礎科学の分野でも活躍している。



「九州北部豪雨の災害復旧とグリーンインフラ ～“いい川”の形成」

島谷 幸宏（九州大学工学研究院環境社会部門 教授／応用生態工学会 理事、H29年7月九州北部豪雨調査団団長）

山口県出身。1955年生まれ。子供の時は父親の転勤のため、各地を移動。1978年九州大学卒業。1980年九州大学大学院工学研究科修士課程修了。旧建設省（現国土交通省）に建設技官として入省後、山梨県河川課、建設省土木研究所（現国立研究開発法人土木研究所）研究員・河川環境研究室室長、国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所所長など歴任。2003年から現職。河川、湖沼、湿地などの自然再生、河川景観の保全、総合的な流域管理を研究。また、いい川が形成されるための地域住民との合意形成や脱温暖化の地域づくりの研究も進めている。



「Eco-DRRの社会実装に向けた挑戦 ～滋賀県の減災型治水システム」

瀧 健太郎（滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 准教授）

大阪府出身。1972年、川の日（7月7日）生まれ。京都大学大学院工学研究科土木工学専攻（水文・水資源工学分野）修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務（18年間）ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当し、数多くの川や人との様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じている。現在は、流域の水循環と社会システムとの相互関係に着目し、持続可能な流域社会の実現に向けた政策や計画に関する研究を進めている。流域政策・計画に関する学問分野の体系化を目指す。



＜応用生態工学会札幌セミナー 2018・参加申込み方法＞

おかげさまで、定員に達し、申込みを締め切りました。

応用生態工学会（札幌）

sapporo.nakamuraken@gmail.com（担当：福家）

★懇親会：18時30分から2時間 / 旅館 中村屋（中央区北3条西7丁目、会場より徒歩1分）
会費 4000 円（当日会場にてお支払いください）